

公益社団法人 日本工学会

令和 7 年度 事業報告書

自 令和 7 年 4 月 1 日

至 令和 8 年 3 月 31 日

令和 7 年度事業報告書

CPD 関連抜粋

公益目的事業 2：人材育成支援・技術者教育推進事業(定款第 4 条第 1 項第(3)号、(4) 号)

〔1〕技術者教育・CPD (Continuing Professional Development) 促進事業 (CPD 協議会)

全体 (事業の成果・体制・課題・方針など)

2025 年度は、2020 年の Covid-19 感染症の発生から 5 年が経過し、CPD 協議会も完全に Covid-19 前の活動に戻した。全会員参加の CPD 協議会全体会議を実開催で 2 回実施し、会員からの活動報告をもとにした情報交換は、会員相互の連携に有意義であった。具体的な活動としては、公開シンポジウム、各委員会 (運営委員会、CPD プログラム委員会、ECE プログラム認定委員会、ECE プログラム委員会、CPD 広報委員会)、各 ECE プログラム (AI2oT、ナノファブスクエア、プロセス新塾、電気・電子系高度技術者育成) の全てについて、オンライン形式も取り入れながら、当初の事業計画を実施した。

1. 全体活動

(1) CPD 協議会シンポジウム

第 1 回公開シンポジウムを、基調講演者として、人工知能学会の会長としてわが国の AI 研究を牽引している栗原先生をお招きし、学びの概念と教育の在り方に根本的な変革をもたらしている生成 AI に焦点をあて、「生成 AI が切り拓く学びの未来 工学人材の生涯教育に向けて」のテーマで開催した (2025 年 11 月 21 日、オンライン形式)。栗原先生の基調講演「到来する人と AI の共生社会において求められる工学人材とは?～イノベーション多産な日本とするためのシナリオ～」はもとより、明和政子先生の「脳の発達原理に基づく AI 活用—知性・感性をいかに育むか」、穴井宏和先生の「生成 AI が拓くエンジニアリング革新と競争力強化を駆動する人材育成」はいずれも刺激的な講演であり、その後の意見交換を含めて、AI 時代のイノベーション人材の育成にきわめて参考になった。参加者数は 80 名であった。

なお、第 2 回 CPD 協議会シンポジウムは 2026 年 3 月 4 日 (水) 開催の「第 7 回世界エンジニアリングデー記念シンポジウム」と共催する形で実施した。

(2) CPD 協議会全体会議

第 1 回会議を 2025 年 5 月 15～29 日に書面審議として開催し、2025 年度の CPD 協議会の新体制が承認された。第 2 回会議を 2025 年 8 月 27 日に実開催し、CPD 協議会の活動内容の報告に加えて、土木学会と日本技術士会から活動内容を話題提供いただいた。第 3 回会議を 2026 年 2 月 25 日に実開催し、CPD 協議会 2026 年度事業計画案・2026 年度事業報告案の報告・審議を行うとともに、日本原子力学会と空気調和・衛生学会から活動内容を話題提供いただいた。

(3) 情報共有活動・広報活動・対外連携の強化

CPD の認知度の向上、企業・学協会の CPD 活動の支援、CPD 協議会ウェブサイトの充実、報道メディアとの連携、中小企業との連携模索、CPD 広報委員会活動などにより広報活動を進めた。

2. CPD プログラム委員会関連活動

今年度は、日本技術士会において検討が進められている IPD (Initial Professional Development) システムについて、日本工学会ならびに CPD 協議会会員学協会の貢献ならびに検討の進捗状況について情報共有などを行い、委員会を年間 3 回開催し、下記活動を推進した。

(1) CPD ウェブサイトなどの活動基盤再整備

会員各学協会の関連サイトへのリンクの更新を実施し、各学協会からの活用利便性の向上を

図った。

(2) CPD 活動に関するグッドプラクティス、情報共有体制の強化ならびに CPD ガイドラインの活用

技術者育成の理念の明確化と会員学協会における良質な技術力向上プログラムの開発に資することを目的に、2023 年度に本委員会により 13 年ぶりに改訂した日本工学会 CPD ガイドラインの内容ならびに改訂の趣旨を情報共有した。

すなわち、改訂日本工学会 CPD ガイドラインでは、2021 年に国際エンジニアリング連合(IEA)が改訂した PC(Professional Competencies：専門職としての知識・能力)を取り込むと共に、第 6 期科学技術・イノベーション基本計画、技術士制度検討の動向、過去に開催した公開シンポジウムにおける議論も踏まえ、技術者を取り巻く環境の変化、産業界のニーズや動向を把握し取り纏めた。

(3) 学協会 CPD 活性化支援

国や産業界のニーズ、学協会が進める CPD 活動の課題などについての情報共有を進めるとともに、会員学協会の CPD を活性化するための支援活動を前年度に引き続き推進した。文部科学省が進めている技術士制度検討では、技術士に留まらず広く技術者・エンジニア全般に関わる議論にも繋がることから、審議会での議論や動向についての情報共有を行うと共に、CPD の公的記録開始に伴い日本技術士会が設置した「CPD 活動関係学協会連絡会」に引き続き参画した。特に今年度から議論が活発化している、GA (Graduate Attributes：高等教育機関卒業時に取得すべき知識、能力)を強化し PC を取得するために行う活動を、社会全体で支援する仕組みである IPD (Initial Professional Development) システムについては、今後、日本工学会ならびに CPD 協議会会員学協会が貢献する余地も多いため、その検討状況の共有と共に貢献についての議論を開始した。

3. ECE (Engineering Capacity Enhancement、高度技術者教育) プログラム委員会関連活動

ハイブリッド形式で ECE プログラム認定委員会、ECE プログラム委員会を開催して以下の活動を推進した。

(1) ECE プログラムの推進

今年度は、エレクトロニクス実装学会が主催する「AI2oT ECE プログラム」、4 大学ナノ・マイクロファブリケーションコンソーシアムが主催する「NANOBIIC ナノファブスクエア ECE プログラム」、計測自動制御学会が主催する「プロセス新塾」、電子情報通信学会が主催する「電気・電子系高度技術者育成プログラム」を計画通り継続支援し、産業界からの積極的な参加を得た。なお、各プログラムは技術の進展・社会変化を反映して講座内容を毎年進化させている。(例えば電気・電子系では講座にデータサイエンス講座を追加、プロセス新塾ではカーボンニュートラル関連講座を追加した)

(2) 次期 ECE プログラム開発の検討

ECE プロモータを派遣し、かつて ECE プログラムを実施していた NIMS 推進委員会幹事との意見交換や今後プログラムの開発検討を引き続き進めている。その他、教育活動に熱心な団体を調査した。(調査継続中)

(3) ECE プログラム技術体系の整備

各学会でのウェブサイト・学会誌・総会・講演会など広報機会を捉えて ECE プログラムの認知度を高めた。高度技術者育成の重要性を広め、また次年度受講生募集に努めた。なお、電子情

報通信学会・エレクトロニクス実装学会・計測自動制御学会では AI について共通講義を行い、急速に社会に浸透しつつある技術課題について各分野・異市場での高度技術者育成を図った。
(次年度以降も実施予定) 異分野主宰団体の連携は刺激的で広報効果も高いと判断される。

(4) ECE プログラム開発のプロモータの育成・強化

「ECE プログラムの開発と実施のガイドライン」について機会を得て各地で紹介し、プロモータ育成に努めた。ECE 活動の認知度は徐々に上がりつつある。

なお、例えば計測自動制御学会「プロセス新塾」ではプログラム修了生有志が推進委員会に入り、推進委員会の世代交代が徐々に進みつつある。

4. 広報委員会関連活動

広報の活動の中で、(1) 項の「CPD に対する認知度向上」、「わかりやすい継続学習の勧め」を基本的なミッションとして、「CPD を促進する一ロメモ」を CPD 協議会ウェブサイトへ No.21 の 1 件を掲載し後方支援を行った。(2)～(4)項の実質活動は行わなかった。

- (1) CPD 協議会ホームページへの「CPD を促進する一ロメモ」を掲載継続する。
- (2) 民間企業・学会・協会の CPD 活動支援の施策を検討する。
- (3) 日本工学会広報委員会と CPD 広報委員会と合同で広報宣伝活動の強化を図る。
- (4) 会員学協会の Hub 学会として各会員の依頼に応じて広報リンクを積極的に張る。

日本工学会 CPD 協議会

全体会議

回	開催年月日	会議内容	参加人数
第 1 回	2025 年 5 月 15 日～29 日 書面審議	・ CPD 協議会 2025 年度の新体制について 会長、副会長、委員の交替について承認を得た	25 名
第 2 回	2025 年 8 月 27 日 オンライン	・ CPD 協議会運営委員会報告 ・ 第 1 回公開シンポジウム内容について ・ 土木学会、日本技術士会の活動報告 ・ ECE プログラム教育、広報委員会報告 ・ 日本工学会 HP 見直し	19 名
第 3 回	2026 年 2 月 25 日 オンライン	・ CPD 協議会 2026 年度事業計画・2025 年度事業報告の理事会提出用内容の確認 ・ 日本原子力学会、空気調和・衛生学会の活動内容報告	17 名

運営委員会

回	開催年月日	会議内容	参加人数
第 1 回 (55 回)	2025 年 5 月 12 日 オンライン	・ 2025 年度 CPD 協議会新体制について 会長・副会長・委員の交替について	新・旧 委員 9 名
第 2 回 (56 回)	2025 年 6 月 4 日 実開催	・ 各委員会報告 ・ 2025 年度第 1 回 CPD 協議会全体会議結果について ・ 2025 年度 CPD 協議会の運営方法について	9 名
第 3 回 (57 回)	2025 年 7 月 18 日 オンライン	・ 各委員会報告 ・ 2025 年度第 1 回 CPD 協議会公開シンポジウムの最終確認	7 名
第 4 回 (58 回)	2026 年 2 月 25 日 オンライン	・ 各委員会報告 ・ CPD 協議会 2026 年度事業計画・2025 年度事業報告の確認	7 名

CPD プログラム委員会

回	開催年月日	会議内容	参加人数
---	-------	------	------

第1回 (84回)	2025年 8月18日 オンライ	・CPD 協議会運営委員会報告 ・第6回世界エンジニアリングデー記念シンポジウム結果報告 ・日本工学会 CPD ガイドラインの変更について	16名
第2回 (85回)	2026年 1月19日 オンライ	・CPD 協議会第3回運営委員会報告 ・2025年度第2回 CPD 協議会全体会議報告	12名
第3回 (86回)	2026年 3月25日 オンライン	・CPD 協議会第4回運営委員会報告 ・2025年度第3回 CPD 協議会全体会議報告 ・CPD 協議会 2026年度事業計画・2025年度事業報告の確認 ・第7回世界エンジニアリングデー記念シンポジウム開催報告 ・IPD 進捗報告	15名

ECE プログラム 委員会

回	開催年月日	会議内容	参加人数
第1回	2025年 4月30日 オンライン	・2024年度 ECE プログラム完了/状況紹介4件 ・2025年度 ECE プログラム継続申請案紹介4件	6名

ECE プログラム認定委員会

回	開催年月日	会議内容	参加人数
第1回	2025年 6月4日 オンライン	・2024年度 ECE プログラム完了報4件並びに 2025年度継続申請4件審議・承認	8名

CPD 広報委員会

回	開催年月日	会議内容	参加人数
第1回 メール 会議	2025年 7月12日 ～8月14日	・CPD を促進する一口メモ No.21「身近な傘を例とした技術者の気づき」の検討・作成	3名

公開シンポジウム

回	開催年月日	会議内容	参加人数
第1回	2025年 11月21日 オンライン	・基調講演者として、人工知能学会の会長栗原先生から学びの概念と教育の在り方に根本的な変革をもたらしている生成AIに焦点をあてて紹介があった。 ・「おもてなし」から「思いやり（メタな深いおもてなし）」をもつAI 開発には日本の勝ち筋があり、「好奇心・多様性・状況理解・寛容性・共感力」といった、人ならではの能力を磨く必要があるとの話があった。 ・京都大学明和先生からは、脳科学の観点から AI の知能（intelligence）と人間の知性（intellect）は別のものであること、人の知性の形成にはホメオスタシスを整える必要があり、共制御（他者との関わり）と脳身連関の重要性の話があった。 ・富士通研究所穴井先生からは、産業界の提言プロジェクト（COCN 推進テーマ）の紹介があり、政府の強力な政策と産業界トップのコミットにより、トップダウンで失敗を許容する姿勢を示すことが必要であるとの話があった。これらの講演を受けての後半のパネル討議を行った。	80名
第2回 共催	2026年 3月4日 オンライン	第7回世界エンジニアリングデー記念シンポジウムを共催	110名 (一般参加者)